

2008年度 日本文化人類学会
第3回 理事会 議事録

日時：2008年7月19日（土） 14:00～18:30
会場：上智大学 四谷キャンパス 7号館12階 第2会議室

出席者：山本、赤堀、上杉、太田、大塚、鏡味、春日、窪田、栗田、佐々木、須藤、関根、鷹木、松田
委任状提出：岸上、葛野、桑山、坂井、瀬川、名和、吉岡、和崎

〔承認事項〕

1. 前回（2008年度第2回）理事会議事録
2. 新・再入会員（8名）につき、総務会で入会を承認したことを報告。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・2008年7月11日～13日の日程で人類学会世界協議会（WCAA）大阪会議が開催され、学会からは山本会長、須藤前会長、国際連携委員長の窪田理事が出席したことを報告。また、小泉潤二会員がWCAA会長の任（2年任期）についたことを報告。
 - ・2008年度朝日賞の推薦依頼があったことを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・本学会及び日本民族学協会の理事・評議員を長年にわたって務めた鈴木二郎会員逝去の報を受け、総務会で検討の上、お悔やみ状を送付するとともに献花することを決定したことを報告。
3. 総務理事報告
 - ・本学会が参加を希望している社会調査士認定機構より、機構の法人化後に改めて参加の可否を審議する旨の書状が届いたことを報告。
 - ・人類学関連学会協議会の合同シンポジウムについて、2009年度は本学会の主催となり、曾我亨氏（弘前大）がコーディネーターとなることを報告。本年度の合同シンポジウムを第43回研究大会中に開催するために、研究大会の会期を研究発表前日の金曜日に繰り上げ、大会初日の金曜日に合同シンポジウムを行なう方向で調整、検討を行なうことを確認した。
4. 広報理事報告
 - ・学会への入会手続きについて、学会ホームページの入会申込書を書き込み式PDFファイルとし、入力後にプリントアウト・押印して郵送もらう方法に変更することを報告。
 - ・研究会情報等を学会ホームページに掲載する手続きについて、各地区研究懇談会に関する情報を除き、学会ホームページの情報フォームを用いて開催2週間前までに依頼（送信）のあったもののみ掲載することを改めて確認。
5. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：7月19日に編集委員会開催、特集の決定等について報告。また、論文の質を維持するなどの理由から、プレ査読を開始することを報告。
 - ・JRCA編集委員会：7月6日開催の編集委員会報告（欠席の桑山理事に代わり上杉理事が報告書代読）
 - ①前期から引き継いだ論文の掲載可否についての検討を行なった。
 - ②JRCAの性格（位置付け）をめぐって協議し、Vol.10からはreview articleを中心とする本来の目的に従って編集する（「投稿論文は制限する」）とともに、地域別のreview articleについては新たなコンセプトを導入することとした。
 - ③学会賞受賞記念論文（日本語）を英訳してJRCAに載せる可能性について協議を行ない、掲載に際しては翻訳料を学会に負担してもらうことを要望することとした。
 - ④JRCAの配布先について、丸善との定期購読の契約条件の改善が必要であることを確認した。以上の報告に対し、②のJRCAの掲載論文を編集部が依頼するreview article中心に変更する（投稿論文を受け付けない）、ならびに③の学会賞受賞論文を英訳してJRCAに掲載する（翻訳料は学会が負担する）という委員会提案はともに保留とすべきであるとの意見が出されたため、JRCA編集委員会

委員長（桑山理事）より改めて提案を行なってもらい、次回以降に検討することとした。

- ・国際連携委員会：WCAAの院生ネットワークについて、国際連携委員会委員長（窪田理事）が、昨年度、JASCA-INFOで参加者の公募をしたが申込がなかったことと、他国では活動を開始する予定もあることを引き継ぎ事項として報告。
- ・部会制導入検討委員会：7月19日に第2回委員会開催、今後資料収集、検討を進めていくことを報告。
- ・学会歴史委員会：民族学研究所時代のインタビュー草稿の扱いを含め、今期中に民族学振興会の所有していた資料の公開を検討し、何らかの結論を出すこととしたことを報告。
- ・地区研究懇談会担当委員：九州・沖縄地区研究懇談会と中・四国地区研究懇談会を7月12日に開催したことを報告。
- ・文化人類学教育特別委員会：京都文教大学の取り組みを紹介。
- ・『文化人類学中事典』編集委員会：原稿の入稿状況について報告。
- ・第42回研究大会報告：5月31日、6月1日に開催された第42回研究大会の参加者数等について報告。
- ・公開シンポジウム（広島）：窪田理事より、2008年11月15日に広島で文化人類学の公開シンポジウムを行なうことを報告。

〔審議事項〕

1. 京都大学人文科学研究所からの要望書提出依頼について
 - ・会長より、京都大学人文科学研究所の共同研究・共同利用拠点研究所化への要望書提出依頼があったことについて説明があり、審議の結果、要望書を提出することが承認された。また、今後、本学会と関係の深い他機関より同様の依頼があった場合には、すべて要望書を提出するとの方針が示され、承認された。
2. 研究大会の運営について
 - ・研究大会運営の短期的課題について、佐々木理事より、配布資料に基づいて説明がなされた。理事会で出された意見を反映させたサーキュラーを作成し、学会ホームページ等で広報することとした。
 - ・研究大会運営の長期的課題について、大塚理事より、2010年度大会以降も発表者数の制限を必要とする可能性が高いことから、今後の研究大会のあり方をめぐって会員から広く意見を募ることが提案された。審議の結果、会員から意見を伺うことが承認された。また、意見伺いを迅速かつ効果的に行うため、学会ホームページ、『文化人類学』73巻2号、JASCA-INFOで会員に向けて「呼びかけ」などを行なうことが承認された。
3. フィールドワーク教育用副読本の学会編刊行提案について
 - ・文化人類学教育特別委員会委員長（鏡味理事）より、フィールドワーク教育用副読本を学会編として刊行することが提案された。審議の結果、学会事業として検討・編集が行われてきたという経緯と、副読本の出版を委員会が行なうことは前期理事会で承認されていることから、「日本文化人類学会監修」とすること、編者は鏡味会員他4名の会員の連名とすることが承認された。
 - ・また、本書があくまでもひとつの副読本であり、多種多様な文化人類学・フィールドワークの理論や方法論を代表するものではないことを序文等に明記することが確認された。
 - ・さらに、学会を監修とする意味や位置付けについて会長の一文を掲載してはどうかとの提案があり、次回以降の理事会で検討を行なうこととした。
4. 日本学術会議・自然人類学分科会シンポジウムの後援について
 - ・日本学術会議・自然人類学分科会より、2008年9月28日開催の公開シンポジウム「戦争と人類学」の後援依頼があったことが報告され、審議の結果、後援することが承認された。
5. 朝日賞の候補者推薦について
 - ・2008年度朝日賞の候補者推薦依頼があったことが報告され、審議の結果、推薦を行うという総務会提案が承認された。
6. 「アイヌに関する国会決議」に際しての意見表明書の送付
 - ・会長より、総務会で検討の上、2008年6月6日の「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」（第169回国会決議第1号）に先立つ6月5日に、決議書提出主体の「アイヌ民族の権利確立を考える議会の会」宛てに本学会のこれまでの立場を述べる意見表明書を送付したことが報告され、審議の結果、承認された。

以上